

○ 北海道音更高等学校の特色ある取組について

北海道音更高等学校では、地域の課題や課題解決に向けて主体的に考え、公正に判断する能力や健全な批判力などを3年間で育成する系統的・体系的な学習プログラムを開発するために「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」の研究指定を受け、様々な学習プログラムを行っています。

また、国際的な視野を広げ、コミュニケーション能力を高めるために「U-18未来フォーラム事業」の研究指定を受け、ICTを活用した国際交流の準備を行っています。

【実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究】

(1) 議場見学

2年生全員が音更町議会の一般質問の様子を議場と別室モニターにて見学しました。

住みやすい町をつくるために議論がされている現場を見ることで、「自分も機会があったら議会で声をあげてみたい」など政治への関心を高めることができました。



【傍聴席からの議場見学の様子】

(2) 未来創造塾

1年生全員が各クラスで実際に社会で働いている方々の話を聞くとともにディスカッションを行いました。

働くこととはどういうことなのかについて考えさせ、仕事についての理解を深めさせるとともに、社会人に話を聞くことによって仕事のやりがいや苦労について考えることができました。



【各クラスでの社会人講話の様子】

(3) ミニ人間ドック

1年生全員と3年生「生活教養」選択者が音更町保健センターの協力のもと、ミニ人間ドックを受診しました。

血圧や理想の体型、BMIについて実際に測定しながら学習することで、自分の健康について振り返り、正常な血圧や「肥満」、「やせすぎ」といった健康面の問題について考えを深めることができました。



【血圧測定の様子】

【U-18未来フォーラム事業】

平成27年度北海道高等学校学習状況調査の結果によると、本校では英語の勉強が好きではない生徒は56.0%、入学前に比べ諸外国の人々との交流、異文化や生活習慣を知ろうとする意欲が高まった生徒は38.8%となっており、英語を苦手としている生徒が半数以上いますが、留学生に刺激を受けるなど、国際交流に興味関心をもつ生徒が増えています。

そこで、本事業を通じて、外国語に対する苦手意識を克服し、興味関心を一層高め、主体的に外国語を学ぶ姿勢や喜びを育むことを目指しています。また、主体的・積極的に外国人とのコミュニケーションを取りつつ、相互の文化的交流を深めながら、グローバルなものごとを捉え、行動できる人材を育成することとしています。現在、ニュージーランドの高校との交流を図るための準備を進めています。

十勝教育局教育支援課高等学校教育指導班指導主事 石川博史